

授業科目の概要

▶ 研究科共通科目

言語習得論 担当：相羽 千州子

第二言語習得に関する諸理論、学習者の傾向などに対する知識・理解を深める。特に外国語としての英語（または他の言語）習得・教授の問題点に焦点を当て、議論をしながら、より良い教授のあり方を考える。

語用論 担当：時本 真吾

言語使用上の規則性を考察する語用論（Pragmatics）の最新知見を議論する。コミュニケーション総体における言語の位置、指示、発話文の意味と話者の意図、発話の丁寧さ、発話理解における推論の働きなどを学ぶ。

音声学特論 担当：石原 健

さまざまな音声現象を先行研究の成果と併せて検証し、受講者それぞれが母語、もしくは専攻外国語のデータを分析し、言語音声の個別言語的な特徴と普遍的な性質を考察する。

対照言語学特論 担当：時本 真吾

日本語を中心にして、英語・中国語・韓国語などを取り上げながら、言語の共通性と個別的特徴の理解を深め、言語教育の実際の場面に役立たせることを意図する。

言語統計論 担当：時本 真吾

実験を利用した言語研究に必要な計画法・測定法・統計解析の基本的な事項について理解し、言語学・言語教育学上のさまざまな問題に実験的に取り組む方法を考察する。

国際理解特論 担当：齋藤 ひろみ

ユネスコの国際理解教育を中心に開発教育、海外子女教育など国際理解に関わる種々の論について概観し、そうした時代における国際理解とは何か、その概念構造について知見を得る。

異文化研究史論 担当：鑑屋 一（中国・韓国言語文化専攻所属）

文化的社会的「他者性（otherness）」がいかに認知され、知的体系の中に組み込まれてきたか、既成の世界観の修正が求められてきたのかという観点から、異文化研究の歴史を考察する。

政治言語文化論 担当：中前 吾郎

日常の政治用語からメディアなど広く現象する政治言語を考察する際の理論を探究し、政治言語が持つ象徴機能の文化的背景について考察する。

日本民俗文学論

日本各地に生きた多くの無名の人々の、実生活の堆積の中に成長していった多様な心のありようが、文学作品という形で定着した経緯を解き明かし、日本人全体の心性の特徴を考察する。

比較文化研究

担当：飛田 満（国際交流研究科 国際交流専攻所属）

文化の中でも思想、特に西洋思想について理解を深める。西洋思想の二大源流であるキリスト教思想と古代ギリシア思想、西洋近代思想の主流となった大陸合理論と英国経験論およびドイツ観念論の思想を比較対照し類型論的な考察を試みる。

比較宗教研究 cc 担当：西沢 史仁

仏教は、その発祥の地インドから東アジアへと広く伝播した教えであり、日本文化の重要な基層の1つを形成しているが、現代の日本人にとって残念ながら「近くて遠い存在」となっている。本講座では仏教を基軸に据えて宗教のあり方について考察したい。

アメリカ研究 担当：浅野 一弘

アメリカについての情報は得ているものの、その実態を熟知していないというのが正直なところではないか。そこで、大統領ごとのトピックに注目して、同国の政治・経済・社会・文化に関する検証をおこなう。

（2025年度実施内容。2026年度には一部変更の可能性あります）

アジア研究 担当：倉橋 圭子

東アジアにおける人やモノ、情報の交流の歴史的展開を、外交・通商・留学・技術移転などの事例から多角的に考察し、現代のアジアにおける交流のあり方を検討するための基礎的知識を修得する。

ヨーロッパ研究 担当：堀内 直哉（国際交流研究科 国際交流専攻所属）

近代以降のヨーロッパの国際政治情勢について、ドイツの動きを中心に分析していく。特に1871年のドイツ帝国設立後のドイツの対外政策に焦点を絞りながら、激動のヨーロッパの近現代史を考察する。

イスラム研究 担当：石田 信一

イスラム教の基本的教義や歴史的発展および現代的な諸問題について概観するとともに、イスラム世界と非イスラム世界（欧米・日本）との関わりについて比較文化論的および国際関係論的な視点から考察する。

多文化心理援助学特論（2025年度は開講せず）

異文化接触のメカニズム、異文化受容と適応などについて学ぶとともに、外国に繋がる人々の多様な問題を把握し、異文化間の適応と援助方法について理解を深める。

▶ 専攻科目 日本語学

日本古典語史研究

研究対象は古典語であるが、常に現代と結びつけながら考察することを心掛け、一つひとつの言葉を支え、またその言葉によって支えられてきた日本人の心性を探りたい。

日本近代語史研究 担当：陳 力衛

近代以降の日本語に関して、「外からの目」としての外国人による日本語（の記述）資料を対象とし、それを丁寧に読み解きながら、当時の日本語の姿を明らかにしていく。

日本漢籍研究 担当：陳 力衛

漢籍の日本における受容を問題にし、歴史的にその変遷を辿っていく。具体的には、語句の対訳などを通して当時の中国語と日本語との意味関係を確認し、さまざまな翻訳形態で日本文学に浸透させた経緯を整理する。

日本漢語研究 担当：陳 力衛

漢字・漢語の問題を取り上げ、その歴史的な変遷を辿って現在に至るまでの姿を理解する。また、日本人の手によって作られた漢字・漢語を分析し、その傾向と特徴を把握する。

現代日本語文法研究 担当：新野 直哉

狭い意味での「文法」にこだわらず、現代日本語をめぐるさまざまな問題・話題について考察。現実社会で発生している日本語をめぐる動きに対応するため、授業では、新聞・雑誌など、生の資料を用いる。

現代日本語語彙研究 担当：新野 直哉

狭い意味での「語彙」にこだわらず、現代日本語をめぐるさまざまな問題・話題について考察。現実社会で発生している日本語をめぐる動きに対応するため、授業では、新聞・雑誌など、生の資料を用いる。

▶ 専攻科目 日本語教育学

中間言語研究 担当：池田 広子

中間言語を学習者の自律的な言語体系と考え、学習者がどのような中間言語を作っていくのかについての知識、理論を考察する。日本語学習者のデータを参考にしながら第二言語習得のメカニズムの解明を目指す。

日本語学習支援研究 担当：金庭 久美子

近年、日本語教育分野においてICTの活用が行われるようになってきている。こうしたICTを利用した日本語学習の支援、または日本語教師の支援に注目し、今後の利用の可能性を探る。

ハイブリッド型授業の実施

本学では、対面・遠隔を併用したハイブリッド型で授業を実施しています。

教材開発研究 担当：金庭 久美子

語学教育で参照されている語学教育のためのスタンダード（実践日本語教育スタンダード、CEFR、JFスタンダード等）について学び、それらを生かした教材開発を行う。

海外日本語教育機関研究 担当：中村 祐理子

本授業では将来の職業選択として海外における日本語教育への従事も視野に入れ、日本語教育が盛んな地域や潜在需要のある地域の背景と現状と問題点を把握する。さらに、今後の学習環境、指導内容に対する貢献の可能性を探る。

言語教育比較研究 担当：池田 広子

1980年代以降、言語教育分野で展開してきた理論を講読し、比較考察する。具体的には、協働学習、教師教育、省察的实践、成人学習論、意識変容、実践コミュニティ、P. フレイレ越境学習、アジアの日本語教育などを取り上げる。

日本文学特論 担当：森 陽香

特定の時代に偏らず広く日本文学全体を見渡ししながら、主に史的方法を用いて、日本人の思想が生成・変容・発展していった過程を研究する。日本文学と伝統芸能全般についての概論も含む。

▶ 専攻科目 臨地研究

臨地研究1（短期）・2（長期）

担当：池田 広子／石原 健／河野 秀樹

学生が自ら研究計画を立て、実地に臨み、研究を深め、研究論文に役立てる。事前に研究計画書を作成し、指導教員の助言と承認を得て実施する。短期は60時間、長期は120時間の研究期間を要する。

▶ 研究論文指導演習

研究論文指導演習1・2

4名の担当教員により行われ、各自の研究課題に合わせて選択する必修科目である。

研究論文指導演習3・4

研究論文指導演習1・2に続き、修士論文の深化を目指す。

履修スケジュール例（日本語学コース1年次の場合）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	9:30 ↓ 11:00	※平日第1～2時限は 日本語・日本語教育専攻の授業はありません。				1
2	11:10 ↓ 12:40					2
3	13:30 ↓ 15:00					3
4	15:10 ↓ 16:40		日本語研究		現代日本語 文法研究	4
5	16:50 ↓ 18:20	対照言語学 特論		研究論文 指導演習 1		言語統計論
				研究論文 指導演習 2		
夜 1	18:30 ↓ 20:00	国際理解特論				
夜 2	20:10 ↓ 21:40					

…春学期 …秋学期

カリキュラム（修了要件：30単位以上）

科目名		単位数 必修 選択	配当 年次	備考
研究科共通科目	言語習得論	2	1・2	研究科共通科目の中から、6単位以上選択必修
	語用論	2	1・2	
	音声学特論 ★	2	1・2	
	対照言語学特論	2	1・2	
	言語統計論 ★	2	1・2	
	国際理解特論 ★	2	1・2	
	異文化研究史論	2	1・2	
	政治言語文化論	2	1・2	
	日本民俗文学論 ★	2	1・2	
	比較文化研究	2	1・2	
	比較宗教研究	2	1・2	
	アメリカ研究	2	1・2	
専攻科目	アジア研究	2	1・2	研究科共通科目（選択必修6単位以外）、および他専攻科目ならびに他研究科の開放科目から、自由選択としての上限6単位を含め20単位以上選択必修
	ヨーロッパ研究	2	1・2	
	イスラム研究	2	1・2	
	多文化心理援助学特論 ●	2	1・2	
	日本古典語史研究 ★	2	1・2	
	日本近代語史研究 ★	2	1・2	
	日本漢籍研究 ★	2	1・2	
	日本漢語研究 ★	2	1・2	
	現代日本語文法研究 ★	2	1・2	
	現代日本語語彙研究 ★	2	1・2	
	中間言語研究 ★	2	1・2	
	日本語学習支援研究 ★	2	1・2	
指導演習	教材開発研究	2	1・2	専修免許を取得する場合は、★印の中から、24単位以上選択必修
	海外日本語教育機関研究	2	1・2	
	言語教育比較研究 ★	2	1・2	
	日本文学特論	2	1・2	
	臨地研究1（短期） ★	2	1・2	
	臨地研究2（長期）	4	1・2	
	研究論文指導演習1	2	1・2	
	研究論文指導演習2	2	1・2	
	研究論文指導演習3	2	2	
	研究論文指導演習4	2	2	

★印は専修免許状取得該当科目

●印は2025年度は開講せず

履修スケジュール例（日本語教育学コース1年次の場合）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	
1	9:30 ～ 11:00	※平日第1～2時限は 日本語・日本語教育専攻の授業はありません。				1	言語習得論
2	11:10 ～ 12:40					2	
3	13:30 ～ 15:00					3	
4	15:10 ～ 16:40			中間言語研究	現代日本語 文法研究	4	
5	16:50 ～ 18:20	対照言語学 特論	海外日本語 教育機関研究	研究論文 指導演習1		言語統計論	
				研究論文 指導演習2			
夜1	18:30 ～ 20:00		教材開発研究				
夜2	20:10 ～ 21:40		日本語 学習支援研究				

…春学期 …秋学期